

【資料 3-4-3-1】

2005 年 5 月 23 日

「日本 ノルウェー：クオリティ・ SHIPPING の推進に向けて」

日本船主協会(JSA)とノルウェー船主協会(NSA)は、2005 年 5 月 20 日、東京にて二国間ハイレベル海運ラウンドテーブル会合を開催した。

ラウンドテーブル会合には、日・ノルウェー両国船主協会会長のほか、ノルウェー貿易産業大臣をはじめ、日本の国土交通省大臣官房技術審議官と、日本海事協会およびノルウェー船級協会(DNV)の幹部が出席した。

日本とノルウェーは、世界最大級の商船隊を支配する 2 国である。会合は、すでに強い結びつきを持つ両国海運界の関係をより強固なものとするを目的として開催され、特にクオリティ・SHIPPING 推進や、油濁事故に備えた沿岸国の体制整備の問題、シップリサイクリング、旗国から公的な委任を受けた船級協会の役割などといった最近の諸課題に注目が集まった。

両国は海運先進国として、クオリティ・SHIPPING 推進に努めており、会合では IMO メンバー国に対する任意監査スキーム、ポートステートコントロール(PSC)、当局による規制とインセンティブ制度、教育と開発研究など、既に採られているいくつかの政策イニシアチブが確認された。

双方は、海運業界が国際的に規律されていくことを確実なものとするについて強い共通の関心を有している。双方は、IMO の活動を損なう地域主義の動きに対し、断固たる姿勢を示した。また、双方は、シップリサイクリングは IMO で律せられるべきである点を強調した。更に双方は、船舶の安全と環境基準は IMO が規制すべきであるのに対し、海難船舶や油濁被害への対応を援助するためのシステムやこれに必要な各種資源については、沿岸国が主たる責任を負うべきであることを強調した。双方は、国際船級業界が、海運業界に対する営利サービス提供という役割と、IMO 諸基準の効率的実施を確保しつつ旗国の代理人として法令遵守を監視する役割を兼ね備えることにより、クオリティ・SHIPPING 推進において重要な役割を果たしていることを認識した。

以上